

# 沖縄県栽培漁業センターの概要

## 1. 沿革

- (1) 昭和55年～58年度 用地取得及び基本施設整備事業
- (2) 昭和58年4月 沖縄県水産試験場の支場として設置される（沖縄県行政組織規則第208条。昭和58年3月31日改正。組織の名称：沖縄県水産試験場支場栽培漁業センター）。
- (3) 昭和58年10月25日 開所式
- (4) 昭和59年度・昭和61年度・昭和62年度 増強施設整備事業（水槽上屋・加温施設・濾過施設等の整備）
- (5) 昭和63年4月 水産試験場支場の位置づけから独立。組織の名称：沖縄県栽培漁業センターとなる（沖縄県行政組織規則第208条の2。昭和63年3月31日改正）。

## 2. 組織

沖縄県農林水産部 ―― 水産振興課 ―― 栽培漁業センター

## 3. 庁舎の所在地

住 所：〒905-02 沖縄県国頭郡本部町字大浜 853-1

電話番号：(0980)-47-5411 FAX番号：(0980)-47-5412

最寄駅：本部半島線（名護バスターミナル発）大小堀駅下車徒歩3分

## 4. 運営方式

県 営

## 5. 職員及び主な担当業務

所 長	新 垣 盛 敬（総括）
主任研究員	村 越 正 慶（貝類種苗生産、地域特産種増殖技術開発）
主任研究員	渡 辺 利 明（甲殻類種苗生産、飼付け型栽培漁場管理技術開発）
主任研究員	多和田 真 周（魚類種苗生産、餌料生物培養、ハマフェフキ放流技術開発）
主任研究員	與那嶺 盛 次（餌料生物培養、魚類・棘皮類種苗生産）
研 究 員	玉 城 信（甲殻類、棘皮類種苗生産、タイワンガザミ放流技術開発）
研究助手 （臨時任用職員）	木 村 基 文（魚類種苗生産、飼付け型栽培漁場管理技術開発）
副 主 査	備 瀬 澄 子（庶務、会計）

\* 転入：與那嶺盛次（水産業改良普及所）、備瀬 澄子（北部土木事務所）

転出：藤本 裕（水産振興課）、稲嶺 邦枝（婦人就業援助センター）

## 6. 受け入れ研修生名簿（研修開始時期順）

氏 名	国 名	期 間	研 修 内 容	派 遣 元
筒 井 功	日 本	5. 27～8. 26	タカセガイ及び ヤコウガイ等の 種苗生産技術	国際協力事業団 青年海外協力隊 (現：コスラエ)

## 7. 種苗生産実績

(1) 対象魚種：ハマフエフキ・オーストラリアキチヌ・マダイ・シマアジ・タイワンガザミ・シラヒゲウニ・タカセガイ・ヤコウガイ

(2) 魚種別、年次別種苗生産実績

魚種名	年 次	平 成 3 年	備 考
ハ マ フ エ フ キ		319.2 22.7～24.7	上段：千尾 下段：ミリ
オーストラリアキチヌ		762.5 21.4	－：実施せず ＋：少数生産 0：生産出来ず
マ            ダ            イ		893.5 21.6～30.3	
シ            マ            ア            ジ		24.8 20.6	
タイワンガザミ		1,273 3～5	
シラヒゲウニ		2 4	
タカセガイ		285 4.2	
ヤコウガイ		—	

(3) 種苗販売実績（上段：千尾、下段：千円）

平 成 3 年 度			
マ            ダ            イ		オーストラリアキチヌ	
5円/尾	779	5円/尾	210
	3,895		1,050
7円/尾	24		
	168		
ハマフエフキ		シマアジ	
7円/尾	83	10円/尾	19
	581		190
合 計 金 額		5,884	

## 8. 予 算 (令 達)

単位：千円

区 分 \ 年 度	平 成 3 年 度	備 考
運 営 費	2,190	
生 産 事 業 費	32,885	
栽培漁業技術開発事業費	17,545 (4,180) (5,765) (7,600)	(事業名) 放流技術開発 地域特産種増殖技術開発 飼付け型栽培技術開発
沿岸漁業整備事業等調査費	2,948	
合 計	55,568	

## 9. 施設の概要

### (1) 敷 地 等

	基本施設	増強施設	そ の 他	備 考
敷地面積	11,067 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	県有地
使用海面	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	

### (2) 建設事業費

	基本施設整備	増強施設整備	そ の 他	備 考
敷地取得費	169,000千円	0千円	0千円	
施設整備費	456,225	150,000		
環境整備	0	0	0	
合 計	625,225	150,000	0	
(国庫補助金)	(243,750)	(75,000)		

## (3) 建 物

施設名	規模・構造	面積 (㎡)	備考
管理棟	鉄筋コンクリート 2階建	396	上屋貯水タンク
採苗棟	〃 平屋建	252.4	
調餌工作棟	〃 〃	194.8	
機械棟	〃 〃	84	
ポンプ棟	〃 〃	36	
車庫	〃 〃	60	
飼育棟	鉄骨スレート、コンクリート水槽	774	加温装置付水槽 32.4t/h・2基
濾過棟	FRP 自動逆洗式	6.72	
貝類採苗施設(1)	軽量鉄骨ビニールハウス平屋建	225	
貝類採苗施設(2)	〃 〃	225	

## (4) 池・水槽

## ① 容量総括表

飼育水槽 (㎡)					餌料培養水槽 (㎡)			合計
魚類	甲殻類	貝類	ウニ類	計	動物性	植物性	計	
400	258	82.5	128	868.5	450	690	1,140	2,008.5

## ② 用途別

用途区分	規格・使用容量 (㎡)		数量 (面)	備考	
親魚水槽	RC	φ 4.0m×2.5m	30	魚類	
	FRP	5.0m×1.2m×0.85m	4	甲殻類	
飼育水槽	RC	4.0m×7.0m×2.0m	50	魚類	
	RC	φ7.0m×1.3m	50	〃	
	RC	φ10.0m×1.3m	100	甲殻類	
	RC	φ7.0m×1.3m	50	〃	
	FRP	5.0m×1.0m×0.55m	2.75	30	貝類
	RC	8.0m×1.0m×1.0m	8	3	ウニ類
	FRP	5.0m×1.5m×0.9	6	4	〃
	FRP	5.0m×1.2m×0.85m	4	20	〃
餌料培養水槽	RC	4.0m×7.0m×2.0m	50	7	動物性
	RC	4.0m×2.0m×1.5m	10	5	〃
	RC	φ7.0m×1.3m	50	1	〃
	RC	10.0m×7.0m×2.0m	100	6	植物性
	キャンバス	φ10.0m×1.0m	70	1	〃
	キャンバス	4.0m×5.0m×1.0m	20	1	〃

## (5) 機械・設備

機械・設備	型式・能力	数量	備考
ポンプ	渦巻ポンプ 11KW 2.24m <sup>3</sup> /分 (全揚程20.8m)	3	
ブロー	アンレットルーツブロー	4	
	① 11KW, 6.0m <sup>3</sup> /分, 0.6kg/cm <sup>2</sup>	(3)	
	② 3KW, 1.15m <sup>3</sup> /分, 0.6kg/cm <sup>2</sup>	(1)	
ジェット・ウォッシャー	11KW, 60.0kg/cm <sup>2</sup> , 0.6ℓ/分	1	
発電機	100KVA	1	
冷凍・冷蔵庫	冷凍 7.5KW (-35℃) 26m <sup>3</sup>	1	
	冷蔵 2.2KW (-10℃) 19m <sup>3</sup>	1	
ボイラー	400,000Kcal/h, 7.5KWポンプ 2基	1	
自動給餌機	0.045KW, 6ℓ/tank	8	
自動底掃除機	0.4KW, 最大排水量 50ℓ/分	1	
自動洗網機	13KW, 10m角/60分 120ℓ/分	1	

## (6) その他の設備

名称	規格等	数量	備考
作業船	FRP 1.10トン 50馬力	1	
〃	FRP 0.30トン 9馬力	1	
フォークリフト	2トン ディーゼル	1	
作業車	貨物車 2トン ディーゼル	1	
〃	貨物乗用車 1,800cc ガソリン	1	
小割生簀	5m×5m	8	
沈澱池	素堀り石積み 375m <sup>2</sup>	1	
取水管	ヒューム管 φ1.0m×93m	1	
栈橋	鉄筋コンクリート 斜路41m, 長さ49m	1	

## (7) その他関連事項

## ① 海水揚水量

日間揚水量 5,000 m<sup>3</sup>/日 (盛期)

日間揚水量 9,700 m<sup>3</sup>/日 (最大能力) 但し、全基を24時間連続運転の場合の数値

## ② 契約電力

契約容量 72KW/H

契約種別 業務用

## (8) 施設の配置図

次頁に示した。

# 沖繩県栽培漁業センター施設配置図

